

令和7年度（2025年度）第1回 函館市企業局経営懇話会 会議録

【開催日時】 令和7年11月6日（木） 午前10時00分～午前11時10分

【開催場所】 函館市企業局庁舎4階大会議室（アクロス十字街）

【次第】

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 企業局管理職紹介
- 3 議事
 - (1) 函館市上下水道事業経営ビジョンおよび函館市交通事業経営ビジョンの進行管理について
- 4 報告事項
 - (1) 令和6年度（2024年度）企業局各会計決算の概要について
 - (2) 南部下水終末処理場消化ガス発電事業について
 - (3) 郵便事業者の誤配による個人情報の漏えいについて
- 5 その他
- 6 閉会

【出欠状況】

■委員（出席13名）

（○は出席、敬称略）

所属団体	氏名	歟	所属団体	氏名	歟
公立はこだて未来大学	白石 陽	一	函館市町会連合会 東部地区協議会	川口 英孝	○
函館工業高等専門学校	山田 誠	○	函館消費者協会	森元 浩	○
北海道大学名誉教授	三浦 汀介	○	連合北海道函館地区連合会	黒瀧 浩二	○
北海道税理士会函館支部	福田 雄基	○	函館商工会議所	竹内 正幸	○
北海道電力ネットワーク株式会社	中村 信吾	○	函館水産連合協議会	布目 征康	○
函館市社会福祉協議会	佐藤 秀臣	一	函館地区バス協会	渡部 浩典	○
函館市女性会議	佐々木 香	一	函館湯の川温泉旅館協同組合	川崎 研司	○
函館市町会連合会	江頭 進	○	一般公募	山本 秀治	○

■事務局（出席24名）

手塚企業局長

- ・管理部 白杵部長、兵庫次長、早瀬総務課長、両角経営企画課長、今野経理課長、杉澤料金課長、加藤収納・滞納整理担当課長、経営企画課4名
- ・上下水道部 伊藤部長、田原次長、川村管路整備室長、川尻計画担当課長、丹内建設担当課長、櫻井維持管理担当課長、西谷浄水課長、加地終末処理場長
- ・交通部 高木部長、向出次長、湊電車事業課長、藤島施設課長

【会議発言概要】

1 開会

経営企画課長

本日はご多忙中のところ、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。私は、経営懇話会の事務局を担当いたします、経営企画課長の両角と申します。よろしくお願ひいたします。
開会前ではございますが、佐藤副会長、佐々木副会長、白石委員におかれましては、所用により欠席されますことをご報告させていただきます。
なお、当懇話会の会議録につきましては、後日公表となりますことをご了承願います。
また、発言の際にはマイクをお使いいただきますようお願ひいたします。
それでは、ただいまより令和7年度第1回函館市企業局経営懇話会を開会いたします。

2 委員紹介

経営企画課長

まず、次第2の委員紹介でございます。
本年度は委員の改選期ではございませんが、2名の委員変更がございましたので、ご紹介いたします。
初めに学識経験者の充実を図るため、この度新たに就任していただきました函館工業高等専門学校山田誠委員でございます。
次に、函館湯の川温泉旅館協同組合からご推薦をいただいておりました大桃誠委員が辞任されたため、新たに就任していただきました川崎研司委員でございます。
以上2名の方が令和7年度から新たに経営懇話会の委員として就任いただいておりますので、よろしくお願ひいたします。

3 企業局 管理職紹介

経営企画課長

続きまして、次第3の企業局管理職紹介でございます。
本年4月1日付で企業局管理職に異動がございましたので、紹介させていただきます。
交通部次長、向出隆洋でございます。
交通部施設課長、藤島志絵樹でございます。
以上で企業局管理職員の紹介を終わります。

4 議事

経営企画課長

次に、次第4の議事でございますが、ここからの進行を三浦会長にお願いしたいと思います。
三浦会長よろしくお願ひいたします。

三浦会長

それでは、次第4の議事でございます。
函館市上下水道事業経営ビジョンおよび函館市交通事業経営ビジョンの進行管理について事務局から説明をお願いいたします。

経営企画課長

それでは、函館市上下水道事業経営ビジョンおよび函館市交通事業経営ビジョンの進行管理につきまして、私、経営企画課長よりご説明させていただきます。

<説明 資料1～15ページ>

三浦会長

ただいま事務局から説明がございましたが、各委員の皆様からご質問等ございましたらよろしくお願ひいたします。
何かございますか、はいどうぞ。

川口委員

上下水道の事業経営について、3ページの左側ですけれども、最近よくテレビで聞く、消化ガスというのはどういうことで、どんな取り組みをしているのか、説明願います。

経営企画課長	<p>事務局より回答させていただきます。</p> <p>ここに記載されている、令和6年度の総括において触れております消化ガス発電についてですが、南部下水終末処理場で行っているものです。</p> <p>本日この後の報告事項で詳しくご説明し、今後の消化ガスの活用方法についてもお知らせしたいと思っておりますので、その際に改めてご報告いたします。</p>
三浦会長	<p>よろしいですか、はい。</p> <p>その他何か、はいどうぞ。</p>
山田委員	<p>ご説明ありがとうございます。</p> <p>基本的なことをちょっとお聞きしたいのですが、評価のA, B, Cについてお尋ねします。</p> <p>Aというのは、すでにすべて終わった、完璧に終了したというイメージでしょうか。</p> <p>Bはまだ残っているということなのでしょうか。</p>
経営企画課長	<p>評価の基準についてのご質問だと思います。</p> <p>経営企画課長からご説明、ご回答させていただきます。</p> <p>評価はAからDまであり、もう一つ「評価なし」というカテゴリーも存在しており、これにより、5段階で評価を行っています。</p> <p>各区分の基準についてですが、A評価は、計画が完了した、また計画を上回り、実績が計画の100%以上の場合になります。</p> <p>次に、B評価は概ね計画通りに進んでおり、実績が計画の99%から75%の範囲で設定しています。</p> <p>C評価は計画を下回り、実績が計画の74%から50%の場合に該当します。</p> <p>D評価は著しく計画を下回り、実績が計画の49%以下の場合となります。</p> <p>主要施策の取り組みが、翌年度以降に実施予定のものについては「評価なし」とする基準を設けています。</p> <p>以上です。</p>
山田委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>さらに細かい計画項目があって、そのパーセンテージで、評価しているということですね。</p> <p>はい、わかりました。</p> <p>ありがとうございます。</p>
三浦会長	<p>それでは他の委員の方、ございますか。</p> <p>はいどうぞ。</p>
中村委員	<p>北電ネットワークの中村です。</p> <p>よろしくお願ひします。</p> <p>11ページ交通事業に関する内容について、後ほど、詳しいご説明があると思いますが、先ほどいただいたペーパーに記載されていた10月23日の市電の事故について関連する点をお伺いしたいと思います。</p> <p>この評価は令和6年度に関するものであり、おそらくこの事故の有無は評価に影響しないと思われますが、令和7年度において、今回の事故がどのように評価に影響するのか、この点について教えていただきたいです。</p> <p>また、事故の発生状況について、私も詳しくわからないのですが、特別に取り扱うべき事故なのか、ある程度ヒューマンエラーということで、毎年数件発生しているようなレベルのもののかについて、評価における位置づけや過年度発生状況を踏まえてご説明いただければ幸いです。</p> <p>どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
経営企画課長	<p>経営企画課長の方からご回答させていただきます。</p> <p>まず、評価の位置付けについてですが、現在の交通事業経営ビジョンにおいては、安全で信頼される公共交通など基本方針を4つ定めており、各々に主要施策を設けています。</p> <p>また、その主要施策に基づいて評価を行っている状況です。</p> <p>例えば、今回の事故が発生したという事実がありますが、事故が発生する以前の対策や事故後の対応についても、評価の対象に含めることを考えています。</p> <p>さらに、今回の事故の詳細については、本日お配りしている次第には記載されておりませんが、後ほど追加報告する予定ですので、事故の内容については、その際に改めてご説明いたします。</p>
三浦会長	<p>よろしいですか。</p>

中村委員	事故があったかどうかということよりは、それを受けてどう対応したかというのが評価の対象になるという理解でよろしいですかね。 はい、ありがとうございます。
三浦会長	はい、他の委員の方、はいどうぞ。
川口委員	4ページの一番上の右ですけれども、水資源保全地域における取り組みをしたということですが、これは市有林に対して、木を植えたということなのですか。
浄水課長	はい、浄水課長の方からお答え申し上げます。 これについては、局有林を500ヘクタールほど水源域に持っております、そこにある木を間伐や下刈りなどの保育をメインとした整備を行ったということです。 以上です。
川口委員	水資源の保全ということで、広葉樹は植えられているのですか。
浄水課長	人工林に関しましては、針葉樹を主に植えてまして、概ね広葉樹林と針葉樹林が半分半分くらいでございます。
川口委員	地域の個人所有の山ではありますが、相当量が伐採されており、しかも、切った後にまた針葉樹をほとんど植えています。 これは水資源の保全にはつながらないと考えますが、市としては、何か指導や取り組みを行っているのでしょうか。
浄水課長	函館市の局有林以外の山については、農林水産部が所管し指導しています。 ただし、企業局が管理している500ヘクタールについては、皆伐のようにすべての木を切ることはせず、水質を重視して基本的には間伐を行い、自然に生えてきた木を育てる整備を行っています。
川口委員	はい、わかりました。
三浦会長	他の委員の方、何かありますか。 よろしいですかね。 それでは、ご質問がないようですので、この件に関しては終了したいと思います。 委員の皆様にはお忙しいと存じますが、各経営ビジョンの進行管理に関わる意見を、提出していただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。 また本日の報告等で改めて質疑が生じた場合など、事務局で質問を受け付けるということですので、ご質問等ございましたら事務局に連絡をお願いいたします。

5 報告事項

三浦会長	次に、次第5の報告事項でございます。 (1) 令和6年度企業局各会計決算の概要について、事務局から報告お願ひいたします。
経理課長	令和6年度企業局各会計決算について、私、経理課長からご報告いたします。 <説明 資料16～18ページ>
三浦会長	ただいま事務局から説明がございました。 各委員の皆様からご質問等ございましたら、よろしくお願ひいたします。 ご質問等ございませんでしょうか。 ご質問等ないようでしたら、議事が本日はいつもよりも多いので、本件は、終了したいと思います。 次に、(2) 南部下水終末処理場消化ガス発電事業について、事務局からご報告をお願いいたします。
終末処理場長	それでは資料の19ページをご覧ください。 終末処理場長よりご説明させていただきます。 <説明 資料19ページ>

三浦会長	ただいま事務局から説明がございましたが、各委員からご質問等ございましたらよろしくお願ひいたします。 はいどうぞ。
山田委員	どうもありがとうございます。 ちょっと興味があったので聞きたいのですが、この消化ガスに関して、どういう単位で言えばいいのか分かりませんが、年間何立方メートルとか、どのくらいの量が出るものなのかを教えていただけないでしょうか。
終末処理場長	終末処理場長よりお答えいたします。 これまでの実績から判断しますと、1年間に約160万ノルマル立方メートルほど発生する見込みです。 1日あたりですと、大体4400ノルマル立方メートルの発生を見込んでいます。
山田委員	どうもありがとうございます。
三浦会長	よろしいですね。 はい、他にご意見ございませんか。 この発電事業というのは、一般の人にわかりやすく説明すると、一般家庭何軒分に相当するかということがわかりますか。
終末処理場長	一般家庭何軒分かというと、毎年一般家庭で使用される電気量が変わっているため、はつきりとした数字はわかりませんが、何百軒単位であると認識しています。
三浦会長	赤川の発電機と比べても、規模は同じくらいでしょうか。 赤川水力発電も今、そのように電気を発電していますよね。似たような規模になるのでしょうか。
終末処理場長	すみません。 下調べをしていなくて申し訳ないです。
三浦会長	こういうのは、何ノルマル立方メートルと言われても一般の人々にはあまり理解できないと思います。 ただ、一般家庭の何軒分の電気を供給できる規模であれば、比較的わかりやすいのではないかと思いますので、少しお伺いさせていただきました。 もし具体的なデータが分かりましたら、いつでも構いませんので教えていただければありがとうございます。 はい、他によろしいでしょうかね。 ご質問がないようですので本件については終了したいと思います。 続いて（3）の郵便事業者の誤配による個人情報の漏えいについて、事務局から報告をお願いいたします。
収納滞納整理担当課長	はい、それでは資料の20ページから22ページまでにあります、9月10月に判明しました3件の郵便事業者の誤配による個人情報の漏えいについて、収納滞納整理担当課長の私、加藤から説明いたします。
	<説明 資料20～22ページ>
三浦会長	はい、ただいま事務局から説明ございました。 各委員の皆様、何かこの件に関して質問がございましたら、よろしくお願ひいたします。 もうこれはどちらかというと郵便事業の方の問題だから、報告として、我々が聞いたということでおろしいですよね。 はい、それではご質問ないようですので本件につきましては、これで終了したいと思います。
6 その他	
三浦会長	それでは次に、次第6のその他でございますが、事務局から報告があることですので事務局から報告をお願いいたします。

経営企画課長	はい、次第にはございませんが、事務局から1件ご報告をさせていただきたいと思います。令和7年10月23日発生の市電車両衝突事故の概要についてでございます。担当課長よりご説明させていただきます。
電車事業課長	はい、令和7年10月23日発生の市電車両衝突事故の概要について、電車事業課長の湊よりご説明をさせていただきます。
	<説明 資料>
三浦会長	ただいま事務局から説明がございましたが、各委員の皆様、ご質問等ございましたら、よろしくお願ひいたします。 どうぞ。
黒瀧委員	黒瀧といいます。 よろしくお願ひいたします。 この電車の事故についてですが、ヒューマンエラーによるものであるため、特にその点を追及するつもりはありません。 ただ、カーブで双方がすれ違って接触したという状況を踏まえると、ダイヤ上の問題として、電車がカーブですれ違わないようなダイヤ編成を作ることはできないのでしょうか。 また、直進であれば、電車にぶつかることはなかったと思いますので、カーブの安全性も含めて、ダイヤ上の問題についてお聞きしたいと思います。
交通部次長	交通部次長の向出でございます。 ダイヤ編成上は、特に交差点において、すれ違いを発生させないことに注目して、ダイヤを編成しているわけではありません。もちろん、遅延する場合もありますので、すれ違いという現象は、どんなダイヤを組んでもおそらく発生するものだと思っております。 私どもの指導としましては、今回直進方向に進入して接触しましたが、運転取り扱い上では交差点に入る際に信号と転てつ器の開通方向を確認した上で進入するという取り扱いになっております。 この度のことに関しましては、そういった確認不足があったために接触事故が起きたということです。 現在、北海道運輸局の調査も入っており、詳細については調査中ですが、乗務員には運転取り扱いのルールを確実に実行するよう教育しており、再発防止については今後も現地調査を続けて早急に策をまとめいきたいと考えているところです。 以上です。
三浦会長	他にご意見ございますか、はいどうぞ。
川口委員	貴社の場合は、軌道のポイントの切り換えは、昔、上方で何かをやっていたような感じがしますが、今は誰が切り換えを行うのですか。 運転手が右に曲がるから右に曲がるというような切り換えをするのでしょうか。
電車事業課長	電車事業課長湊よりご回答させていただきます。 今はレプリカとなっております操車塔で、昔は転てつ機を操作していましたが、現在は運転士が車内から行き先信号を選択する方式になっています。 十字街交差点の盤に左向きの鍵マークが出ると、架線にぶら下がったトロリーコンダクターというセンサーをゼットパンタグラフで反応させることで選択が確定されます。 確定すると信号と連動してポイントが、谷地頭方向か函館どつく前方向かに設定され、道路信号が青になる電車信号の矢印が点灯しポイントも所定の方向に作動します。 つまり乗務員が車内操作で進行方向を選びポイントを変える仕組みです。 現時点では、これら信号表示やポイントの進行方向の確認を怠ったことが原因と考えています。
三浦会長	よろしいですか。 はい、他にございますか。 はいどうぞ。
中村委員	北電ネットワーク中村です。 冒頭お伺いしたいことについてお話を聞かせいただければと思います。 この事故自体に特殊性があるのかどうか、また過年度の発生状況から見たときにやむを得ず発生するヒューマンエラーは毎年見られるものなのかどうか、という点について少し解説していただけますでしょうか。

交通部次長

はい交通部次長の向出でございます。

今回の事故については、車両同士が衝突した事故であり、鉄道業界でも重大事故と位置付けられています。

また、今回は負傷者の方はいずれも軽傷ですが、負傷者が出了たという事実があるため、我々としても非常に重く捉えており、この事故は重大事故であると認識しています。

重大事故の発生頻度については、過去に脱線事故などありましたが、毎年重大事故が必ず起こるわけではありません。

我々も冒頭で評価についての話がありましたが、これらの対応策を充実させる方向に舵を切りますので、その点も含めた総合的な評価になると思います。

経営ビジョンの中では、重大事故の発生件数やKPIは現時点では設定されていないため、具体的に事故が何件発生したら評価がどうなるということはありません。

しかし、今回の事故は個々の脱線事故と比べて負傷者が出了いる点に重きを置いていますので、今後の対応についても安全対策に尽力していきたいと考えています。

以上です。

中村委員

はい、ありがとうございます。

私たちもやはり労働災害をできるだけ減らそうと努力していますが、どうしてもヒューマンエラーに伴う災害が発生しています。

そのため、不安全な行為を防ごうとしても、完全には防げない部分があるものですから、不安全な環境を作らないように努める必要があり、行為と環境の両方の面で取り組んでいくことで、そういった事故や災害を減らせるのではないかと、社内でも話し合っています。

ハード面での対応が難しい場合もあるかもしれません、ヒューマンエラーがあっても事故が起きないような構造や体制を構築できれば望ましいと思いますので、意見を述べさせていただきます。

ありがとうございます。

三浦会長

はい、他にご意見ございますか。

これまで過去10年を振り返ると、いろいろな脱線事故や架線の切断など、様々な事故がありました。

ただ、今回の事故は少し質が異なるように感じます。

人間のエラーが原因となっているのですが、これまであまり人為的な事故はなかったように思っています。

例えば、天候の影響で風が吹き、線路上に異物が乗つかって脱線したり、人が避けようがないような事故が大多数だったと記憶しています。

しかし、今回はやはり人間の判断ミスが原因になっているように思いますので、中村委員が指摘した点を踏まえ、今後のために再考することが重要ではないでしょうか。

できれば、人間のエラーが起こらないようなシステムが確立されれば理想的です。

どのような状況でも安全が確保できる方法があれば素晴らしいのですが、専門家ではない私はその詳細はわからないのですが、それでもこの事故を一つの機会として検討していく方が良いと感じました。

他の委員の方ございますか。

それでは、ご意見がないようですので、本日の会議日程は以上となります。

それではこの先の進行を事務局の方にお返ししたいと思います。

7 閉会

経営企画課長

三浦会長ありがとうございます。

また中村委員はじめ、大変貴重なご意見ありがとうございました。

今後の企業局の運営方針等に関して反映させていけるように、努力していきたいと考えております。

以上で本日の日程はすべて終了となります。

本日の会議録につきましては、この後事務局にて案を作成し、後日委員の皆様に発送させていただき、ご確認いただく形で作成して参りたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

また次回、令和7年度第2回函館市企業局経営懇話会の開催につきましては、来年令和8年3月下旬を予定しております。

それでは以上をもちまして令和7年度第1回函館市企業局経営懇話会を閉会いたします。

本日はありがとうございました。